令和８年度前期　小樽支部活動報告

研究主題

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた体育活動の創造」

１　研究の柱

①主体的な姿へと導く単元計画・体育授業のあり方について

②対話的な姿へと導く単元計画・体育授業のあり方について

③深い学びへと導く単元計画・体育授業のあり方について

２　研究仮説

学習指導要領では、小学校・中学校に共通して「運動に親しむ資質や能力」「健康の保持増進」「体力の向上」を育んでいくことが目標として挙げられている。これらの達成のためには「主体的・対話的で深い学び」のある体育授業を継続して実現していくことが肝要である。

そこで、本研究会では「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた体育活動の創造」を研究主題として設定することとし、「主体的」「対話的」「深い学び」の３つを柱として研究を進めていく。これらの柱について工夫を講ずることで主題に迫っていくと共に、この３つの柱が切り離されたものではなく相互に影響し合うものであるということを日常の授業実践を通して深めていけるよう研究を進めることとした。

３　今年度の研究の取組（公開研究授業）予定

小学校・中学校　各１公開

４　今後の展望

北海道学校体育研究大会渡島大会からの学びを生かした授業実践へつなげるため、今年度小樽支部で予定している研究授業を通して、本支部会員や市内の各学校へ学びの還元を目指す。また、本支部の現状を踏まえて次年度の方向性や計画に反映させることで、「つなぐ体育 ひらく未来」や「達成感のある体育学習」の実現へ向けた取組を進めていく。